

自然を広げる

市川中学校 三年 横尾 彩音

春に種や苗を植える。育つ。夏や秋に収穫する。冬を越し、また、春に種や苗を植えるを繰り返す。こうやって、毎年、祖母の手伝いを私はしている。

四月中旬から五月上旬、祖母は、よく店に行き、いろんな植物の種や苗を買ってくる。小学生のころは、何を買ったのか気になり、「今日は何を買ったの。」と聞くこともあった。そして、祖母が畑を耕したり、雑草を刈ったりしているのを手伝っていた。しかし、中学生になったあたりから、畑仕事の手伝いが面倒くさいと感じていた。だんだんと手伝う回数は減り、中学三年生になった今は、全くしなくなっていた。

私は、美術部に所属している。最後の年ということもあって部活動に力を入れていた。一学期から夏休みにかけて、ポスターやコンクール作品の応募があるのでそれを描いたり、画力向上のための活動をしたりしている。六月に入ってから私は作品を描き始めた。それは「ミツバチの一枚画コンクール」というものだった。そのコンクールを選んだ

理由は、入賞したときの賞金額が魅力的だったこと。それと、人物を描きたくなかったからだ。人には個人差があるものの、基本的なバランスは変わらない。そのバランス調整が難しいから、あまり描いていない。コンクール作品を作るにあたって参考にしたのは、家で育てているいちごだ。それから私は、いちごを観察するようになった。

コンクール作品を描き始めて数日が経ったころ、私は、祖母からじゃがいもの収穫を手伝ってほしいと頼まれた。その日は、あまり面倒くさいと思わなかった。祖母と二人で作業をした。少し湿っている土の中に、まだ隠れているじゃがいもを探りて探す。大きいじゃがいもを見つけたときの達成感。ほかの野菜や今育てているものの成長具合についても話した。久しぶりの畑仕事の手伝いは運動不足のせいもあって、とても疲れた。しかし、祖母と野菜について話しながら作業したので知識が増えた。また、外の空気は気持ちよく、楽しい時間だった。

その日以降のコンクール作品の作業はとてもはかどった。土に触れて、植物の手触り、におい、葉のこすれる音などから、五感が刺激され、自分の考えがまとまったからだと思

う。祖母にいちごの葉の形や色がどう変わったのか尋ねたり、学校で友人や先生にアドバイスをもらったりしながら完成を目指した。ミツバチの一枚画を描いている間でも、祖母から種植えや収穫の手伝いを頼まれたが、私は、面倒だと思うことがなくなっていた。

ミツバチの絵は描き始めてから約一か月ほどで完成した。私は達成感で満たされた。絵が完成するまでの間、祖母と植物について話し、自然に対する感謝の気持ちが今までよりも強くなったのも要因の一つだと思う。また、畑仕事の手伝いで息抜きできたこともあるだろう。

緑にふれ、自然と向き合うことは、息抜きと気分転換にとてもよい。何か悩みがあるとき、何かに行き詰ったときなどに緑と花に頼ってみてはどうだろうか。私のように、なんとなく思ったからという小さなものでもいい。野菜を植えたり、花を眺めたり、川の流れを感じたり……。私たちは思っているより身近に自然と触れ合うことができる。

しかし、最近では、環境破壊が進み、市街地の自然は少ない。木や花は植えられているが、多いとはいえない。だが、どのような植

木や花壇も、緑の力を理解して管理してくれている人がいる。花や緑、自然の良さを多くの人に感じてほしい。自分ができることは小さいことだけれど積み上げていきたい。今、自分ができることは自然に関するコンクールに応募したり、畑仕事の手伝いをしたりすることだ。まだ、美術部で活動できるので、自然がテーマの作品を描きたい。

来年私は高校生になる。だんだん勉強する分野が多くなり勉強に時間を割かなければならない。大人になったら八戸を離れるかもしれない。祖母を手伝うこともなくなり、関わることは少なくなってしまう。しかし、緑と花に触れて、自然を感じることを続けていきたい。自然と関わり続けられるような道を選び、自然を守り、広げていけるような人になりたいと強く思った。